

## だから私は教育学科へ

教育学科 2 年 齋藤あみ さん

—この学科を選んだ理由は何ですか？

幼稚園や保育所の先生になるためです。

—なぜ幼稚園の先生をめざそうと思ったのですか？

もともと子どもが好きということもありますが、一番のきっかけは、高校時代に幼稚園へ職場体験に行ったことです。子供との関わりが楽しく、先生たちの子どもに対する指導も印象的で、志したいと思いました。

—ちなみに、ご自身はどんな子どもだったのですか。

いつも踊ったり歌ったりするのが好きでした。どんな場所でも“オンステージ”で、明るくおてんばな子でした。やんちゃ、っていう感じです。今もマイペースでポジティブな性格ですね。

—あみさんのような、やんちゃな子を指導することになるかもしれませんね！将来は、どんな先生になりたいですか。

一人ひとりの表情を見て、その子の発達段階にあった指導をしていきたいです。また、小学校に入学した際に子どもが困らないように、必要最低限のことを身に付けられる指導ができる先生になりたいと考えています。

—福祉大はボランティア活動が盛んですが、あみさんも何か行っていますか？

保育所の見学ボランティアに行きました。地元の保育所ではありますが、なかなか行く機会がなく、大変新鮮でした。保育所の雰囲気や様子、先生たちの子どもに対する声掛けなど、実態を知ることができました。

—教育学科に入ってよかったことを教えてください。

一番は、同じ志をもつ仲間と出会えたことです。高め合っていける仲間に出会えたことは素晴らしいことだと感じます。また、福祉大はボランティアサークルも充実しており、大切なことを日々、学ぶことができています。私は高齢者の方と関わるサークルに所属しています。普段の講義では学べない年代の方と関わることで、また違った視点から様々なことを学ぶことができています。

—それは学科の魅力でもあり、福祉大の魅力でもありますね。これからはどのようなことを学んでいきたいですか。

来年から幼稚園の実習が始まります。幼稚園教諭のための必要な知識を身につけ、実習につなげていきたいです。

(取材・記事：教育学科 3 年 阿部李奈子)

## ここでしかできない学びがある

教育学科3年 齋藤未歩さん

小さい頃から「教員になる」という夢は持っていたが、大学進学にあたり東北福祉大学は“本命”ではなかった、という齋藤さん。しかし、3年生となった今、ここでしかできない学びや体験を通して、心情に大きな変化があったそうです。齋藤さんはこの大学、学科で何を学び、経験してきたのでしょうか。

—学科では今、どのような学習を行っていますか

初等教育専攻で、将来は小学校の教員になるため、ピアノ練習や実践活動など日々スキルアップに励んでいます。秋田県出身なのですが、つい先日の教育実習では地元の小学校に行ってきました。とても楽しかったです。

—この大学、学科に入ろうと思ったきっかけは

教員には、小さい頃からずっとなりたいと思っていました。大学自体は、実は本当に入りたい大学ではなかったんです。いろいろな大学を受験して、この大学にたどり着いた…、といった形です。

しかも、入学前はあまり良い印象を持っていませんでした。遊んでいる学生が多いんじゃないか、というイメージでした。ですが、入学してみて印象がガラッと変わりました。周りの学生が教員をめざして必死に学んでいる姿を見て、私も頑張らなければと、感じさせられました。

—教育学科に入って、特に良かったと思うことは

福祉大学ということもあって、「特別支援教育」を学ぶことができます。私自身、最初はあまり興味がなかったのですが、特別支援教育について学んでいくにつれ、興味を持ち、現在も専攻しています。全ての大学の教育学科で必ずしも学べるわけではないので、この大学でしかできないこと、この大学の強みなのではないかと感じます。

—何かサークル活動や部活動は行っていますか

バスケットボールサークルに入っています。バスケットボールは小学校4年生からやっていて大好きなスポーツです。活動自体は週に1回だけですが、練習試合や大会にも出場するなど、本格的に活動しています。また、小学校でのボランティア活動も週1回行っています。

—最後に、あらためて将来の夢を聞かせてください

やはり将来の夢は小学校の教員になることです。実際に大学に入って、小学校への教育実習やボランティアを経験して、ますますその気持ちが強くなりました。採用試験合格に向けて、全力で頑張ります。

(取材・記事 福祉行政学科3年 内村大樹)

## ラーニング・コモンズから夢をかなえる

教育学科3年 阿部李奈子さん

小学校教員になるために、教育学科で学ぶ阿部さん。「子どもから嫌われることを恐れずに、怒ったりほめたりと、メリハリのある指導をしたい」とめざす教員像を持ちながら、ラーニング・コモンズを有効に使い、日々勉強に励んでいるといいます。そのラーニング・コモンズに関する話を伺いました。

ーラーニング・コモンズをどんなときに利用していますか。

主にゼミで教員採用試験や面接、模擬授業などの練習で利用しています。空いていれば、友人と教育に関わる討論をする場にもしています。

ーラーニング・コモンズを利用してみてどう感じましたか。

家とは違う雰囲気、集中しやすいと思います。また、周りを見ると、自分と同じように勉強をしている人がいて、モチベーションが上がります。

ーどのくらいの頻度で利用していますか。

週に1回くらいです。もともと、ラーニング・コモンズのように落ち着いた場所が好きなんです。だから、カフェにもよく行きますね。カフェでは音楽を聴いたり、甘いものを食べたり。友人といけば、話も弾みます。

ーラーニング・コモンズを利用しているときにハプニングはありましたか。

予約ができていなくて、利用できなかったことがありました。もう少しテーブルや椅子を増やして、利用スペースを広くすると良いかもしれません。利用者も増えるかもしれません。

ーこれからも利用したいですか、またどう利用したいですか。

利用したいです。試験勉強以外でも利用したいなって思います。

(取材・記事 教育学科2年 齋藤あみ)

## 大学でのすべての経験と時間が、将来につながる

福祉行政学科3年 内村大樹さん

公務員志望者が多い福祉行政学科に在籍する内村さん。入学時はやはり公務員になりたい、という思いを持っていましたが、学業や偶然にも入部した文化部での活動を通して、新たな将来像も頭に描いているようです。

—まず、東北福祉大学に入学しようと思った理由を教えてください。  
兄がこの大学出身で、入って勉強を頑張りたい、と思ったからです。

—今、頑張っていることは何ですか？  
就職活動です。また、いろいろな人と関わることのできるボランティア活動にも力を入れています。

—3年生も後期となれば、就活への準備を進めないと、というようになりますよね。思い描いている将来像はありますか。

公務員か新聞記者です。公務員は大学1年生の頃からなりたいと考えていましたが、新聞記者にも興味が湧いてきていて、今はどちらにするか悩んでいます。

—なぜ記者の仕事に興味を持ったのでしょうか  
尊敬しているゼミの先生に勧められたからです。(内村さんの) 特長を生かせる仕事は、公務員ではなく記者ではないか、と言われました。課外活動でも新聞部に所属しているのですが、これはたまたま(部の顧問に)誘われて入ったものなんです。

—たまたま？  
見学に行ったらいきなり名刺を作られて、驚きました(笑)。今となっては、学生新聞制作を通して将来につながる様々な経験ができて、誘ってもらってよかった、と感謝しています。

—記者の魅力は、どんなところと考えていますか？  
新聞は一面をみるだけで、主要な情報がすぐに分かります。また、震災などがあっても情報をいち早く読者に伝える力があり、特に地元の新聞は地元の良さや魅力がたくさん詰まっていて、そういった身近な情報も読者に伝えることができる、というのが魅力だと思います。

—あらためてとなりますが、将来に向けての目標は  
公務員になるか記者になるか、就職活動次第ですが、どんな仕事でも人のためになる仕事がしたい。自分の納得できるような仕事に就きたいと考えています。

(取材・記事：教育学科3年 齋藤未歩)

## 住民に寄り添う保健師に

保健看護学科4年 村上あすか さん

看護、と聞くと真っ先にイメージが浮かぶのが、白衣を着た看護師の姿。しかし、東北福祉大学保健看護学科では看護師だけでなく、保健師、助産師の国家試験受験資格を得ることができます。このうち、保健師の国家試験合格に向け学びを続ける4年生の村上さんに、保健師の仕事やめざすきっかけについて語っていただきました。

—大学生活もあと数カ月ですが、現在、力を入れていることを教えてください  
保健師になるには、まず看護師の免許を取らなければいけません。私は2つの免許を取得するために、来年の国家試験（国試）に向けて勉強しています。

—保健師って、どんな仕事をするのでしょうか  
公務員なので看護師などとは違い、病院勤務ではありません。主な仕事は乳幼児健診や健康運動で、地域に合わせた活動を行う仕事です。この地域の方は塩分を多くとるから対策をしよう、とか、老人が多いので健康体操の場を設けようとか、そういった予防的な活動が主となります。

—保健師になりたいと思ったのはいつからですか  
高校生の時です。元々医療系の仕事に就きたいという思いと、地域に根付いた仕事をしたいという思いはありました。それで調べてみたら、保健師という職業があることを知り、それからです。

—学科で勉強してきて、面白い、よかったと思ったことは何ですか  
実習がとにかく多くて。授業の面白さというよりも、実際に実習に行ってみて地域の特徴を調べて、住民の方々と関わることでたくさん気付くことがあるのが面白いです。また、授業で学んだ経験が実習で活かせたりすると面白さがあります。実習で忙しくても、頼りになる仲間や先生に出会えたことも良かったと思います。

—残りの学生生活でしたいと思うことは？  
まず国試に2つ受かることです。あとは、就職すれば仙台を離れることになると思うので、仙台という都会にいるうちに遊んでおきたいですね（笑）。

—最後に、どんな保健師になりたいですか。  
やっぱり、住民の皆さんに寄り添う保健師になりたいです。これをやらないといけない！と強制するのではなく、その地域の特徴を考えて、住民の声を聞いてやっていきたいなと思っています。

（取材・記事：教育学科2年 中村ちえり）

## 1年次から母校で実習！なりたい自分に近づく「教育実践活動」

教育学科2年 佐藤史織さん

—小学校教諭をめざし、初等教育専攻に在籍する佐藤さんですが、今、どのようなことを学んでいますか

（小学校で教える）各科目の指導方法について、先生からの講義形式や、自分自身で作成する指導案をもとに学生間で模擬授業を行うことなどを通して学んでいます。模擬授業は3人から20人くらいの学生で行っています。指導案を作る上では、児童が自分自身で答えを見出せるようなタイミングを与えることが難しいです。ヒントを出し過ぎないように、と考えています。

—小学校教諭をめざすようになったきっかけは

小学生時代の担任教諭の人柄に魅力を感じ、憧れてめざすようになりました。

—教員になるためには、いろいろと選択肢はあったと思いますが、東北福祉大学の教育学科を選んだのはなぜでしょう？

ほとんどの大学では4年生からの実習が主ですが、1年生から母校で現場を体験できる「教育実践活動」が決め手でした。早期の実習は魅力でしたし、この科目は4年間履修することもできます。

—理想の教員像はありますか

やはり、小学生の頃の担任教諭のように、子どもたちの可能性を活かしていけるような教育者が理想です。そのために、今は様々なことにチャレンジしていきたいです。

（取材・記事：保健看護学科4年 畠山ひかり）

## 子どもに寄り添える教師に——日々の気づきや発見が夢へと繋がる

教育学科 2年 中村ちえりさん

—学科ではどのような勉強をしているのでしょうか

小学校教員をめざして、小学校教員、特別支援の勉強をしています。2年生になってからは、来年の教育実習に向けた模擬授業をしたり、指導案を作成してどのように授業を組むか、構成も考えたりします。また、板書の練習もしています。

—なぜ教育学科に進もうとしたのか、そのきっかけは何でしょうか

小、中学生時代は、学校になじめないような子どもでした。友人とのトラブルで学校に行けず学校が苦手でした。その時に、非常勤の先生や心の教室の先生に相談してもらいました。そんな経験から、担任教員が子ども一人ひとりを見られたらいいな…と。子どもに寄り添える先生になりたい、と思ったのがきっかけです。

—実際に入学してみて、どうですか

大変だけど、面白いです。学習指導要領のことも知ることができたし、先生が子どものことをどのように考えているのかも、知ることができました。

—学んでいて楽しいことは何でしょうか

学びが大きな実になっています。学びの中で、気づきや多くの発見をしていることに面白さを感じています。

—逆に、辛いことは何ですか

(将来教員となることに)プレッシャーを感じる時があります。成長期の子どもにとって自分の行動が影響を与えらると思うと、責任感を感じます。

—あらためて最後に、将来の夢や目標は

大学で気づいたことを活かして、子どもに寄り添える教員になりたいと思います。子どもを否定せずに、伸び伸びと感性を伸ばせるようになりたいです。教えるのではなく見守ることを大切にしていきたいです。

(取材・記事：保健看護学科 4年 村上あすか)